アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　「感謝、感謝、感謝。」

「はりきゅう小菊堂」を開堂して、偶数月に帰省するようになった。10月は少し伸ばして11月のあたままで。11月3日の秋祭りを楽しみにしとったけど、仕事の都合でどうしても東京に戻らないけん。あぁ、今年も見れんのか、と諦めとった2日の朝。太鼓の音が聞こえてきた。唐獅子や!家から飛び出て音の鳴る方へ走ったら昔ながらの舞。嬉しかった。一気に子供の頃に戻った。そして、間近で見る唐獅子、ひとことで言うと感動した。ものすごく感動した。力強さや美しさ以上に、この町の文化や伝統を守り続けてくれる人達がいることに心が震えた。

過疎化で少子化が進み、人がどんどん離れていく中、昔ながらのものを残していくということは容易なことじゃない。続けることは始めることより難しい。東京で暮らすあたしが町の伝統や文化を残したいと言うたところで、できることなんかないんかもしれんけど、できることがあるなら力になれることがあるならあたしにできることならなんでもやりたい。そう思わせてくれた。

この場を借りて唐獅子や神輿、祭の準備に関わったすべての方に深い深い感謝を。そして、今年以上に2019年は愛南町が豊かに実る一年でありますように。皆さま、良いお年を。

（テノヒラkiku）

【はりきゅう＊小菊堂】12月は20日～12月26日・1月3日～7日の予定です。
詳しくはホームページ（http://www.kogikudo.com/）をご覧ください。

あいなん逸品図鑑 その④

逸品図鑑「久良のぶり」

生産者　浜英水産　濱田　克人（かつひと）さん

愛媛ＣＡＴＶの動画はこちらから

久良沖で長年にわたりブリの養殖を行っている濱田克人（かつひと）さん。毎年５月頃に稚魚を仕入れ、魚の成長に合わせて網を入れ替えながら１年半から２年ほどかけて丁寧に育てます。「なかなか思うように早く大きくなってくれない」と話す濱田さん。翌年冬頃に５kg台に成長したブリを中心に出荷しています。

出荷先は関西・関東圏の市場が中心ですが、久良漁協を通じた個人への直販や、今年から町内のスーパーで切り身の販売を開始するなど、組合と連携した販路拡大にも積極的に取り組んでいます。

濱田さんのおすすめの食べ方は「ぶりしゃぶと照り焼き」。消費者からの美味しかったという声が励みになっています。「一生懸命、力を込めて育てたのが良かったなと思える。これからは輸出など海外出荷もできたら」と今後の展望を見据えました。

▲ブリの養殖を始めて42～3年になる濱田克人（かつひと）さん。現在は年間2万尾ほどのブリを養殖しています。

▲出荷時には5kg台に成長。久良漁協を通じて「久良のぶり」として出荷販売されています。